

わかばやし若者まちづくりプロジェクト支援事業 活動発表会の様子

- 開催日時 令和7年3月25日(火) 13時30分から15時00分まで
- 開催会場 東北学院大学 五橋キャンパス 未来の扉センター オープンスペース

ー各団体からの活動発表、会場参加者との意見交換ー

各団体から、配付資料とスライドにより説明があり、その後、会場参加者との意見交換を行いました。以下、各団体の意見交換の概要です。本市ホームページ同ページ掲載の「活動発表資料」と是非併せてお読みください。【資料のアドレス】

(1) 東北学院大学総合ボランティアステーション学生運営チーム(以下、ボラステ)

会場参加者) 発表していただいた活動の中に「深沼海水浴場での清掃活動」がありましたが、この活動は皆さんが中心の単独事業ですか、何かの事業に乗ったものですか。

ボラステ) 深沼での事業を含めて全て自分たちで企画した実施した内容です。

会場参加者) 地域の人たちと交わるというこの助成事業の目的の観点から、いろんな活動をしている人たちと一緒にやるということはいかがでしょう。

ボラステ) 今のところは、自分たちでできることは自分で運営していますが、他の団体の活動に参加する機会があれば一緒にしたいです。

会場参加者) 深沼でのビーチクリーンとかありますが、昔、荒浜に住んでいた海辺の図書館をやっている方が毎月やっていて、単発での参加もオーケーで、最低でも100名とか参加して多い時だと200人とか来て、そういうところに行くともしかしたら企業の方とかNPOの方の話が聞けるかもしれませんので、次年度そういう行事に参加することも考えてほしいと思います。

会場参加者) 企画をするにあたっては地域の方からお願いされたりしたことはありましたか。どのように企画しているのですか。

ボラステ) 現時点ではお願いされたりというものは無いです。自分たちが必要とすることは何か考えて調べて、実施しています。

会場参加者) 説明にあったドタキャンを減らすなどの研修はどのようなイメージですか。

ボラステ) 能登半島にボランティアに行くにあたって事前研修みたいなものがありましたが、それを簡略化したようなもので、意識を高めるようなボランティアへの心構えなどをイメージしています。

会場参加者) 東長町児童館での活動は具体的にどのようなものですか。

ボラステ) 児童館の職員からこどもたちの自由時間に遊んでくださいと言われます。

会場参加者) 大きなお友達みたいな感じ遊んで、こどもたちの反応はどのようなものでしたか。

ボラステ) とても喜んでくれて、こどもたちから話かけてくれました。

会場参加者) 団体内での連絡はどのように取っていますか。

ボラステ) グループLINEで取っています。

会場参加者) 地域でボランティアをお願いしたい時、どちらに連絡したらよいですか。活動について地域へ周知してほしいです。能登半島への活動へは敬意を表します。募金活動もすごいです。

会場参加者) 荒町公園清掃をした時の中学生との交流はいかがでしたか。一緒になった経緯はどのようなものでしたか。中学生もいろんなことで勉強になったことあったのではないか、いろんな世代と交流していいなと思って聞いていました。

ボラステ) 東北学院中学の国語の先生と来ていたのでそれ経由か、経緯は定かではないです。中学生と話しながらか行つて、自分たちの気付かない中学生目線の意見が聞けました。

会場参加者) 光のページェント参加したとき、楽しんで参加しているよう工夫した点はどんなことですか。

ボラステ) 光のページェントを見ながら活動し、ページェントを一周するので、見学者から「がんばれよ」と声かけがあり、自分たちの活動を意識でき、ボランティアの活動意欲につながりました。

会場参加者) 人が多く出るところで清掃活動することで、イベントに来ている人たちへの意識付けにもなります。参加する人が多くなるイベントへの参加もいいなと思います。

会場参加者) 清掃活動に参加してくれてありがたいと思っています。企画された事業に参加してくれた方々の満足感は、社会貢献をしたということなのでしょう。

ボラステ) 社会的意義を感じたり、基本的にボランティアに参加する人は、人のために何か役に立ちたいという心意気から参加している人が多いのでそういうところでの満足感だと思います。

(2) てらいく

会場参加者) 今年度、事業をしてみても今後の課題は何ですか。

てらいく) ボランティア保険に入っていますが、それがあっても子どもたちにケガをさせたくないの、ボランティアコーディネーターに指導いただいています、これからもメンバーに指導いただいてケガのないよう活動していきたいです。

もう一つの課題は、メンバーの数は増えているが活動に参加する人は限られています。地域にもっと根付いてほしいと思っており、後継者、後輩の育成に力を入れてやっていきたいです。

会場参加者) 今週の日曜日(3月23日)に開催したリンクフェスでの書道もすごく盛り上がって、子どもたちが喜んでいました。書道は、結構、大人もやりたい人もいると思うのでやってみてもいいかもしれません。目標にしている地域での祭は町内会と組めばできます。是非とも今年一緒にやりたいです。

会場参加者) 参加する子どもも増えてきていると思いますが、保護者の反応はどんな感じですか。参加してない方のコメントとか教えてください。

てらいく) 正直、保護者との接点はお迎えの時くらいしかないですが、書道パフォーマンスの

時のアンケートで一人っ子の家庭から、普段、上の年齢の大学生のお兄さん、お姉さんと交流できてありがたいとの意見がありました。

会場参加者) 親御さんとしてもそういう交流の場があることはうれしいと思っていることがわかってよかったです。

会場参加者) 情報の共有はどのようにしているのですか。

てらいく) LINEで事前の連絡や、定例会で行っています。班毎に活動しているので小さなコミュニティで情報共有ができていて、それぞれのリーダーに任せています。

会場参加者) なかなか参加できないメンバーが参加することへの工夫は何かしていますか。

てらいく) プロデュース班で、てらいく内でのイベントを考えてメンバーが楽しめることを企画しています。バーベキューや運動会をして来やすくするようにしています。

会場参加者) 自分たちのお楽しみを考える、参加しやすくするよい仕組みですね。

会場参加者) 毎月連坊に来てもらって、地域のお母さんは皆さんのことをみんな知っています。企画力がじいちゃんばあちゃんでは思いつかないところでそれを自分たちで次々に実行してすごい。手段はデジタルで我々はどうしようもならないが、考え方はアナログで、地に着いた企画力ですごい。

会場参加者) ボランティアという言葉はやわらかいようでいて、これから壁にぶつかることもあると思いますが、活動に対して大人から声がけがもっとあっても良いと思っており、声がけはありますか。

てらいく) 会場を快く貸してくれたり、お祭りにお手伝いした次に道で会った時にお声がけしてもらって、地域の方々によくしてもらっています。ボランティアという対価が発生しない活動のところで、だったらバイトした方がいいという思う学生たくさんいると思います。限られた学生生活の中で、てらいくでは労働力というより経験して本人に楽しんでもらい、活動してよかったと思うところを大切にしています。

会場参加者) 期待と応援しています。がんばって。

(3) 若林書道チーム (以下、書道チーム)

会場参加者) 書道をこどもたちに楽しんでもらうという新鮮なイベント。反省点として広報ということでしたが、フェスティバル開催の広報はどのように行ったのですか。

書道チーム) チラシだけで行いました。連坊小路小学校、荒町小学校(市民センター経由)にそれぞれ電話して600部ずつ配りました。もう少し参加してほしいです。想定していた参加人数より少なかったのですが、それだけではないが、もう少し早く広報すればよかったです。次年度も書道のコンテンツをやりたいです。

会場参加者) フェスティバルを拝見しました。来場者はすごく楽しかったと言っていました。本音の感動の言葉でした。参加人数で評価されるものもあるが、来場者の満足度が大事で、大成功だったと思います。

尾崎委員) 書道チームは解散するのですか。

書道チーム) てらいくからの派生チームだったので、てらいくに戻り、そこで活動を展開します。

会場参加者) 続けてほしいです。

会場参加者) コンテストは当日9名の参加だったようですが、参加想定は何名でしたか。

書道チーム) 20名ほど。

会場参加者) 書道で3時間もたせるというイベントの発想は私たちでは考えつきません。十分に仲良くなる時間を1時間計画して取って、その後書道をするという学生ならではのプログラム、事業。正に大学生のならではの事業で大学生の力を感じた。できれば続けた方がいいです。学校へPRするとかして関心と呼ぶとか。よくがんばりました。

書道チーム) 書道活動は、てらいくの特設班で継続して行っています。

会場参加者) 単純に広報しても人ってなかなか集まらないと思うので、「楽しかった」という口コミも大切だと思うので、参加した方のいるところで広報していくとかして広まっていくとよいです。私も継続してみたらと思います。

書道チーム) 今回の反省を踏まえて活動をよくしていきたいです。

広告をいくら配っても、やっぱり参加した人の声というのが一番直に伝わります。自分は田舎育ちで一番こわいのが噂。(その力により)人の伝えを次年度、これまで支援してくださった方々を中心に輪に広げていきたいと考えています。

てらいく) てらいくの中でこのイベントは行っています。てらいくからの派生ということで今回イベントを開催してくれたので、てらいくに参加してないこどもたちも参加してくれました。今回で終わらないようにてらいくの中でより根強いイベントとしていくようにしていきます。



たくさんのご意見、応援メッセージありがとうございました。